

呼びかけ

倉本 聰・雨宮 処凛・小野 有五・西尾 正道・麻田 信二

# 原発のない北海道 の実現を求める「全道100万人」署名

北海道知事 高橋 はるみ 様

【要請趣旨】

2013年 月 日

東京電力福島第一原発事故から2年が経過しましたが、依然として収束する見通しもなく事故原因も究明されていません。しかし、政府は「2030年代原発ゼロ」を見直し、原発の再稼働や新增設、輸出へと突きすすんでいます。

泊原発では、敷地内の破碎帯が活断層の可能性もあります。また、泊原発周辺の「日本海から陸地にかけて166<sup>km</sup>の活断層」や「西側60～70<sup>km</sup>の海底活断層」による地震や津波の影響が懸念されています。

現在、建設中の大間原発では、プルトニウムを含むMOX燃料を全炉心で使用する危険な原発で、函館市からわずか30キロ圏内に位置しています。

また、幌延「深地層研究センター」で研究している「地層処分」について、日本学術会議は抜本的な見直しを提言しました。10万年間も監視が必要な、核廃棄物の存在を後の世代に知らせることのできない「地層処分」は見直すべきです。

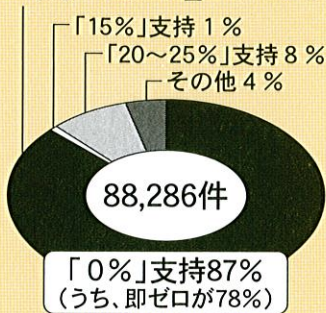
福島原発事故は、私たちに、あらためて「核と人類は共存できない」ことを認識させ、これからの社会のあり方や自らの生き方を問いただしています。

命と暮らしを守るため、子どもたちの未来のために、脱原発の実現に向け、次の事項を要請します。

【要請事項】

- 1 泊原発の「再稼働」を容認しないこと。
- 2 大間原発（青森県大間町）の建設中止を各関係機関に要請すること。
- 3 道の「核抜き条例」にもとづき、「核のごみ」の最終処分場は受け入れないこと。
- 4 「原発ゼロ」社会の実現に向け、再生可能な自然エネルギーを積極的に導入すること。

「即ゼロ」78%



2030年の原発依存度をどうするか、三つの選択肢のパブリックコメント（意見公募）の結果

氏 名	住 所

「呼びかけ団体」さようなら原発1000万人アクション北海道／「呼びかけ人」倉本 聰・雨宮 処凛・小野 有五・西尾 正道・麻田 信二  
〒060-0004 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろうビル2F 北海道平和運動フォーラム気付／Tel:011-231-4157／Fax:011-261-2759

「取扱団体」原発問題全道連絡会 〒003-0805札幌市白石区菊水5条1丁目4-5 道労連 気付／Tel:011-815-8181／Fax:011-815-4545